

農業水利施設の維持管理における非農家の参加促進方策

胆沢平野土地改良区を事例として

Ways of promoting participation of non-farmers in maintenance and operation of irrigation and drainage facilities.

- Case Study of Isawa-heiya Land Improvement District in Iwate Prefecture -

松村明昇*

広田純一**

MATSUMURA Akinori*

HIROTA Jun-ichi**

1. はじめに

わが国の農業水利施設の維持管理は、受益農家の全員参加によって支えられてきた。しかし、農家の兼業化や離農の増加、あるいは都市化の進展などにより、農業水利施設に対する農家の意識が薄れ、浚渫や刈り払い等の作業に人が集まりにくくなっている。他方、農業用水については、生活・防火用水、親水、景観・生態系の保全といった地域用水としての機能が注目され、非農家も含めた維持管理体制確立も課題となっている。

本研究では、農水省の補助事業である地域用水機能増進事業を通じて非農家への啓発活動を意欲的に行っている岩手県胆沢平野土地改良区を対象に、活動の内容と成果及び課題を明らかにすることを目的とする。

2. 胆沢平野土地改良区における地域用水機能増進事業の経緯

胆沢平野土地改良区では1998年度に地域用水機能増進事業の採択を受け、1999年度に地元自治体や関係諸団体で構成される「胆沢平野地区地域用水対策協議会」を設立、また土地改良区と関係市町の事務担当者による「実践活動委員会」を発足している。1999年度中に地区内の実態調査や地域用水機能増進計画の作成を行った上で、実際に事業(活動)を開始したのは2000年度からである。

3. 地域用水機能増進事業の目標と活動内容

胆沢平野土地改良区における本事業の目標は、農家・非農家を問わず、水路に対する住民の意識を高め、水路の維持管理への参加を促進することである。これまでに行われてきた活動には、住民参加による水路改修計画の策定を目的とする「水路を考える会」、「水路を考える会」をさらに発展させ、グラウンドワークを取り入れた参加型水路整備、農業水利施設の維持管理作業への参加イベント(クリーン大作戦)、農業水利施設やその管理への理解を深めてもらうための啓発イベント(小学生を対象としたふるさと水探検隊、農業用水や水田を題材とした大型紙芝居、中央管理所の一般公開、水土里ネットフェスタほか)、土地改良区の活動を理解してもらうための広報やホームページなどがある。現在までの活動経過は表1に示す通りである。

4. 活動の成果と課題

水路を考える会 第1回目は参加者全員で水路状況を現地で確認し、図面に意見・要望を書き出す。これを基に改良区が計画案を作成する。第2回目は計画案を検討し、修正を加える。第3回目は計画案をさらに検討し、最終計画案をまとめる。従来の進め方に比べ

* 岩手大学大学院農学研究科 Graduate School of Agriculture, Iwate University

** 岩手大学農学部 Faculty of Agriculture, Iwate University

キーワード：地域用水，農業水利施設，維持管理，住民参加

ると参加者の参加意識を高めることにつながり、管理面にも責任を持つという姿勢が見られるようになったことは成果だが、非農家参加者が少なく、非農家への呼びかけの方法に課題を残している。

参加型水路整備 水路改修に関して住民側の関心が高かった下笹森水路、明後沢水路、太郎ヶ沢水路で実施されている。ワークショップを通じて水路改修計画に住民の意見が取り入れられるだけでなく、実際に水路施工に参加することで、より水路への興味を持ち、維持管理作業への参加意欲を高めることに成功している。2003年の下笹森地区グラウンドワークでは、地元町内会や地元企業等、多数が参加し、大成功であった。

クリーン大作戦 乙女川、十三軒水路、前沢水路において行われている。このうち十三軒水路は、生態系配慮型の水路で草刈りの手間が余計にかかっていたが、非農家の参加により農家の負担が軽減されるという効果が出ている。どの水路でも毎回50名以上の参加があり「継続すべき」という参加者からの意見が多い。改良区では大きな手応えを感じており、定期的な参加を想定した「友の会」を設立しようというアイデアも出ている。

啓発イベント 小学生を対象とした「ふるさと水探検隊」(水路の生物観察や体験)や「紙芝居」は小学校からの評価が非常に高く、依頼が増加している。他方、啓発イベントは毎回盛況ではあるが、実際の維持管理作業への参加に直接つながるわけではなく、手間がかかるわりには効果が見えにくいという問題がある。

広報・ホームページ 通信「アジュガ」を年2回発行し、管内約29,000世帯へ配布している。また、ホームページは2年間で約26,000件のアクセスがある。これらにより土地改良区の認知度は上がっていると思われるが、その効果は今のところ検証されていない。

5. おわりに

これまでの啓発活動を見ると、～のように対象地を特定した活動で目に見える成果が上がっており、非農家を含めた維持管理体制の確立への見通しが見えてきている。対象区間を増やして活動を継続することが必要である。

表1. 胆沢平野土地改良区における活動経過

年月日	活動名	参加者
1998	地域用水機能増進事業の導入	
1999.11.26	胆沢平野地区地域用水対策協議会の設立	
2000.8.27	中央管理所の一般公開	432名
2001.7.17	ふるさと水探検隊(前沢小学校)	70名
2001.7.18	なかよしホテル探検隊(若柳小学校)	50名
2001.7	通信「アジュガ」第1号配布	
2001.8.1	引越し大作戦(胆沢第一小4年生)	70名
2001.8.25	乙女川クリーン大作戦	101名
2002.2	通信「アジュガ」第2号配布	
2002.3	ホームページ開始	
2002.3.6	第1回下笹森地区ワークショップ	30名
2002.4.21	第2回下笹森地区ワークショップ	
2002.7.10	ふるさと水探検隊(永岡小4年生)	44名
2002.7.29	第3回下笹森地区ワークショップ	
2002.8.8	引越し大作戦	40名
2002.8.30	ふるさと水探検隊(常盤小4年生)	162名
2002.9.7	乙女川クリーン大作戦	241名
2002.9.14	十三軒水路クリーン大作戦	72名
2002.10.10	通信「アジュガ」第3号配布	
2002.10.29	第4回下笹森地区ワークショップ	
2002.11.28	第1回明後沢水路ワークショップ	
2002.12.8	第1回太郎ヶ沢水路ワークショップ	
2002.12.17	「紙芝居」講演(胆沢第一小4年生)	82名
2002.12.18	「紙芝居」講演(古城小4年生)	22名
2002.12.21	「紙芝居」講演(愛宕小6年生)	32名
2003.1.20	第2回明後沢水路ワークショップ	
2003.2.21	「紙芝居」講演(愛宕小6年生)	32名
2003.2.27	第2回太郎ヶ沢水路ワークショップ	
2003.3.10	通信「アジュガ」第4号配布	
2003.3.10	第3回明後沢水路ワークショップ	
2003.6.19	ふるさと水探検隊(南津田小4年生)	49名
2003.6.25～	乙女川水質調査	360名
2003.6.26	ふるさと水探検隊(佐倉河小4年生)	56名
2003.7.6	水土里ネットフェスタ	500名以上
2003.7.20	下笹森地区グラウンドワーク	
2003.9.6	前沢水路クリーン大作戦	58名
2003.9.6	十三軒水路クリーン大作戦	62名
2003.9.7	乙女川クリーン大作戦	135名
2003.9.22	第4回明後沢水路ワークショップ	30名
2003.10.4	22世紀ブナの森づくり(胆沢地区の児童・生徒ほか)	500名
2003.10.26	明後沢水路引越し大作戦	
2004.2.19	ワークショップ(若柳小4年生)	

注) 水路を考える会は数が多いので省略した。

引用文献

- 1) 胆沢平野土地改良区：胆沢平野土地改良区史(第三巻)，pp.232～303，2001.
- 2) 藤田優他：胆沢平野土地改良区の地域用水機能増進事業の取り組みと課題，農業土木学会誌 Vol.70/No.9,pp.40～43,2002.